

# 平成 30 年度事業計画書

平成 30 年 4 月 1 日から 31 年 3 月 31 日まで

認定 NPO 法人 心の架け橋いわて

## 1 事業の計画

前年度に引き続き、岩手県大槌地区を主たる対象とする長期被災地支援活動を行う。活動内容は、これまでと同様、震災ストレス相談室、被災者宅同行訪問、多職種専門家チームによるアウトリーチ（こころがけ訪問）、サロン等による予防的啓発活動（こころがけサロン）、大槌活動拠点（こころがけベース）におけるコミュニティ・カフェ運営（こころがけカフェ）、災害メンタルヘルス専門家育成、他支援団体における支援者支援が柱となる。サロン活動については、より多くの住民の参加が期待できるよう、巡回型と拠点型とをバランス良く企画し、地域支援メンバーと遠隔支援メンバーが相補的に協働して運営にあたり、他支援団体との連携を強化する。また、来年度始めに予定されている認定 NPO 法人の継続審査に向けてこれまでの活動のアーカイブ作成を行い、その成果を国内外の学術大会にて発表する。

助成金の関係により第 1 四半期の現地活動回数を月 1 回に減らすが、第 2 四半期からは昨年度と同様に月 2-3 回の活動とする見込みである（7 月に補正予算策定）。事務局では、認定 NPO 法人の継続審査準備を行うとともに事務作業の簡素化と自動化を進める。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者の 人数	受益対象者の範囲及び 人数	事業費の金額 (千円)
①関係機関、団体との連携による、メンタルヘルスに関わる予防、啓発、相談事業	精神障害者宅への多職種アウトリーチ	1 か月に 1 回 金曜または土曜日	岩手県大槌町	20 名	被災地住民 60 名 (延べ)	8,264
	大槌ベース、仮設住宅集会所、公民館におけるコミュニティ・カフェ、サロン活動、医療講話、相談  (医師による震災ストレス相談室における相談事業は岩手医科大学の予算により 1 ヶ月に 2 回程度実施する)	1 か月に 1 回土曜日	同上			被災地住民および医療機関支援者 600 名 (延べ)

②ICT機器を活用したメンタルヘルスサービスの提供	インターネット、遠隔テレビ会議システムの活用により支援者間および関係団体との情報共有を効率化し、医療過疎地への遠隔メンタルヘルス支援を実施する。	随時	岩手県大槌町、同釜石市、同盛岡市、山形県山形市、福島県相馬市、東京都千代田区、神奈川県横浜市、千葉県千葉市、静岡県静岡市など	25名	こころがけ活動メンバー20名およびインターネットに接続できる環境がある関係者、特定非営利活動法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会（なごみ）一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎ（からころステーション）	200
---------------------------	--	----	--	-----	---	-----

③災害復興に精通するメンタルヘルス専門家の育成	世界文化精神医学会への参加および発表	10月	米国	2名	学会参加者約1000名	200
	日本精神科救急学会への参加および発表	10月	沖縄県	3名	学会参加者約400名	
	上記学術大会における発表資料取りまとめ謝金、印刷費					

④社会活動を行っている団体間の協力、支援、ネットワーク構築に関する事業	第6回東北みらい創りサマースクールへの講師派遣	9月	岩手県遠野市	1名	岩手県の被災地支援団体関係者、教員、自治体職員、学生など50名	0
	福島県のなごみ、宮城県のかろころステーションとの共同シンポジウム	2月	宮城県仙台市	4名	東北地域の支援者など約100名	

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者の 人数	受益対象者の範囲及び 人数	事業費の金額 (千円)
特記すべきこと なし						